

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 依知小学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】	校長名 田所 直子
---------------	--	-----------

学校教育目標	学校経営の方針
自律と尊重 自律:自分で考え 自分で決めて 自分で行動する児童を育てる。 尊重:互いに認め合い 折り合いをつけながら生活できる児童を育てる	・インクルーシブな学校づくりをめざす。 ・「自律と尊重」に照らして、教育活動を見直す。 ・すべての教職員ですべての子どもを育てる意識をもち、チームで児童支援をする。 ・学校、家庭、地域の協働体制で子どもを育てる。
今年度の重点目標	

①インクルーシブな学校づくり（行動変容） ②教育活動の見直し ③学ぶ意欲の向上 ④児童指導、児童支援体制の充実 ⑤ 地域学校協働活動の推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
インクルーシブな学校づくり	2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議等での継続的な理念の確認と児童支援の共有</li> <li>学校だよりでの広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての子どもがホームクラスで学ぶことを基本としつつ、個々の教育的ニーズに合わせた支援が受けられるような校内支援体制づくりに向けて、教職員間での意識が向上している。ケース会議等、チームで支援する体制が整いつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援のできるリソースルームの立ち上げ</li> <li>児童支援・児童指導の組織的な仕組みづくり</li> </ul>
「自律と尊重」を基盤にした教育活動の見直し	1・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ会議での教育活動の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活のルールについて、児童が自らその内容を見直し、考え、改善できるような支援ができ、その結果、きまりや約束が精選された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童主体の特別活動の内容への転換</li> <li>全校体制での自律した学びへの転換</li> </ul>
学ぶ意欲の向上	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わかる、できる」への授業改善</li> <li>校内研究の充実</li> <li>GIGAスクール推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかる・できるから、またがんばろうという学習意欲の向上がみられた。</li> <li>外部講師による国語科のモデル授業参観から、教員の授業改善への意欲向上が図られた。</li> <li>クロームブックの活用が進んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の「自律した学び」への転換</li> <li>家庭でのGIGA端末の有効な活用</li> </ul>
児童指導、児童支援体制の充実	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート、児童の面談日実施</li> <li>全教員での臨機応変な児童支援（サポートタイムの継続）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談で子どもたちの、心理的安定が図られてきた。</li> <li>サポートタイムは、臨機応変な形で、すべての教職員ですべての子どもを支援することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の自己指導能力の育成</li> <li>支援体制のさらなる充実</li> </ul>
地域学校協働活動の推進	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程と連携した地域学校協働活動</li> <li>学校運営協議会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員全員で、今年度の具体的取組を立案し、実現できた。</li> <li>学校運営協議会は、関わる全員が当事者意識をもち、最上位目標へむかっでの取組を熟議する会議にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めざす児童像を意識し、学校運営協議会のグループ協議に取組立案の視点を入れる。</li> <li>協働活動の体制づくりの整理</li> </ul>

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校運営協議会の中で、関係者評価を行った。事前に評価アンケート結果を配付し、今年度の振り返りができた。委員の皆さんからは、令和5年度へむけて、校長の学校経営方針を広く周知していく手立ての工夫や、次年度の重点方針に向かった具体的な取組の提案など、前向きなご意見や改善案をいただいた。学校の教育課程をふまえた地域協働活動の推進をしていきたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育目標を「自律と尊重」とシンプルにしたことで、すべての教職員や児童が、この目標を目指しながら生活することができてきた。保護者や地域の協力をいただいて、子どもたちの命を守りながら、安全に教育活動に取り組めた。インクルーシブな学校づくりの理念をもとに、意識改革から行動変容をめざし、児童にかかわるすべての大人が同じ目標に向かっていると感じる。「すべてのひとりに届く教育を」をもとに、ホームクラスの授業形態の工夫や授業改善、多様な学びに対応できる新たなリソースルームの立ち上げを図りたい。学校教育目標「自律と尊重」を継続し、支援体制をさらに充実させるとともに、学校・家庭・地域一体となり、子ども一人一人の自律をめざしていく教育を推進していきたい。